



2000km を旅したマフィー、 9年の時を経て感動の再会

今年7月、オーストラリアで9年前に行方不明になった
飼い犬が、2000km 離れた町で発見されました。
なぜ、マフィーは再会を果たすことができたのでしょうか。

海外
Topics
オーストラリア

文/ハイランド真理子

クロエ・ラッシュビーさんは現在17歳。彼女が8歳のときに、マフィーは忽然と姿を消しました。「クロエとマフィーは、切っても切れない関係でした。だから、マフィーがいなくなった8歳のときには、クロエは、慰めようもないほど落ち込んでいました」とクロエさんのお母さんのナタリーさんは語ります。あらゆる手をつくしましたが、見つけることができませんでした。結局、最後の望みを捨てたというのです。

9年前、マフィーは、クロエさんとその家族と一緒に、オーストラリアのクインズランド州の州都、ブリスベンに住んでいました。そして、9年後、マフィーが見つかったのは、そこから2000kmも離れたメルボルン。

「9年間の長い期間を経て、もとの飼い主の元に！」。

7月末、このニュースは世界中を駆け巡りました。

マフィー発見の背景

ある日のこと、メルボルンのRSPCA(※1)に、とある家の裏庭のごみの中で犬が飼われていると、匿名の連絡がありました。

早速出向いたのは、インスペクター(※2)のゲイル・カルターさん。確かに現場には、皮膚病を患いアレルギーで毛玉だらけ、痩せこけた犬をボール紙のごみの中につけました。

オーストラリアではマイクロチップが義務づけられているのですが、ゲイルさんは最初、この痩せこけた犬には恐らくマイクロチップなどついていないだろうと思いました。ところが、結果は……飼い主の名前と連絡先が記録されたマイクロチップが見つかったのです。その情報を読み取ると、なんと、その連絡先は2000km離れたブリスベン。

「電話したのですが、受け取っ

たオーナーもすぐには信じられないようでした。でも、マフィーの姿かたちについて説明すると、叫び声があがったのです」。

それは、9年前、彼らのもともとから忽然と姿を消した家族の一員、マフィーでした。

海辺で穏やかな余生を

実は現在、虐待で追訴をされているメルボルンの夫婦は2年前にマフィーを拾ったもので、それ以前の7年間、マフィーが何をしていたのかはまったく不明。しかし、もつとも重要なのは、彼女が生きていて、無事にもとの飼い主の下に戻ることができたことです。

ラッシュビー一家は、9年間の間に住まいをゴールドコーストに移しました。今では、13歳という高齢犬になるマフィーは、気候のいいゴールドコーストでそのリタイアメントライフ

を過ごすわけですが、クロエさんは「もう絶対彼女から目を離しません」と語っています。クロエさんのお父さんであるディーンさんも「実は、去年のクリスマスに、マフィーと一緒に飼っていた14歳のボーダー・コリーが癌で逝ってしまい、われわれの家族は悲しみに暮れていました。それが、マフィーが戻って来て、家庭にまた明かりが灯りました」と語りました。

マフィーは、ブリスベンからメルボルン、そして今度はメル

ボルンからゴールドコースト、往復、4000kmもの距離を旅したことになります。助けられた当時の痩せてやつれた姿も、RSPCAの人々の優しいケアで随分と回復して、今はクロエの腕に抱かれて幸せに暮らしていることでしょう。

そうそう、ゴールドコーストは美しいビーチで有名な場所。ときどきはビーチに出て波間で遊び戯れることもあるのだそうです。幸せに、マフィー。ぜひ長生きしてね。



発見からしばらく経ち、体も徐々に回復してきたマフィー。



マフィーを発見したインスペクターのゲイル・カルターさん。

※1 RSPCA (Royal Society for the Prevention of Cruelty to Animals: 王立動物虐待防止協会)は、英国から始まり、今では国際的なネットワークを持つ世界最大の動物保護団体で、オーストラリアでも各州にその運動が広がり、活躍しています。

※2 RSPCAには「インスペクター」、つまり動物虐待のケースを調べる、いわば警察官の役割を果たす人たちがおり、虐待をしているのではないかという知らせが入ると現場に向かい、虐待されている動物たちをレスキューし、更に虐待した人を訴追します。